



読書の秋

副校長 京樂眞次

日毎に寒気加わる時節となりました。保護者の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

明日10月29日(土)は「西リンピック2022～思い出祭～」(第54回運動会)が開かれます。明日の本番に向けて子どもたちは準備を重ねてきました。良い天気恵まれ、思い出深い運動会になるよう願っています。ちなみに運動会が29日に実施できない場合は朝7時にメールでお知らせいたします。その場合29日は休みとなり、30日に延期となります。

さて、篠原西小では11月1日から読書週間が始まります。読書週間は終戦まもない1947年(昭和22)年、「**読書の力によって、平和な文化国家を作ろう**」(公益社団法人読書推進運動協議会HPより)という決意のもと、第1回『読書週間』が開催されたことが始まりです。

自分が小学生だった頃を振り返ると決して読書好きとは言えませんでした。ただ、そんな小学生でもよく読んでいた本が2種類ありました。

一つ目は、今から100年ほど前に書かれたコナン Doyle 作のシャーロックホームズシリーズです。合理的で高度なトリックを使った難事件を順序立てて紐解いていくのをわくわくしながら読んで記憶があります。犯人やトリックが判明しているのにも関わらず何度も読み返してしまい、よく母親から「犯人が分かっているのにどこが面白いのか。」と呆れられてしまう程の魅力がありました。

二つ目は鉄道時刻表です。「本」と言えるのか分かりませんが鉄道が好きだった私は国鉄のダイヤ改正がある度に時刻表を購入していました。インターネットがない時代、本屋さんのレジ前には当然のように平積みされていました。「今度の休みは長野に行こう!」と勝手に決めて(もちろん行きません、空想です。)
「お金が無いので、特急あさま号には乗ることができないから、〇時〇分発の普通に乗って…。」
「乗り換えの時間を使って駅弁を買おう、だるま弁当が名物なのか…、いやいや、少し我慢して峠の釜めしにしよう。」等、時が経つのも忘れ、車窓から見える景色を想像しつつ何時間でも時刻表を眺めていました。

本を読むことによって「備わる力」は多いと言われています。「知識が豊かになる」「記憶力や集中力が高まる」「脳が活性化する」「心が落ち着く」等々です。他に「想像力が豊かになる」ということも挙げられるでしょう。挿し絵がある本もありますが、漫画のように全てのページに絵が付いているわけではありません。そのため読書をしているときには、文章から全ての情報を読み取ることになります。ただし、中には文章で明らかにされていない部分があるため、そのような箇所は想像力で補わざるを得ません。登場人物はどのような気持ちだったのか、周囲の景色はどう見えているのか、等の点を想像しながら読まなければいけません。本を読むことによって備わる幾つかの力については大人になってから理解できました。実際に「豊かな想像力」が自分に身についたのかは疑問ですが、もし、この力のことを自覚していたならば、シャーロックホームズを何度も読んでいた小学生だった私の姿を呆れた表情で見ていた母親に「読むたびに、想像を膨らませているんですよ。」と目を輝かせながら伝えていたことでしょう。時刻表をもとにした「妄想鉄道旅行」は、豊かな想像力を養うことに役立っていたのかもしれない。

「本は心のご飯」という言葉があります。読書をして、自分をさらに高めていってほしいと思っています。